

第 1 回所沢市放課後児童対策協議会

会 議 録

令和元年 7 月 2 5 日

様式1号

会 議 録

会 議 の 名 称	令和元年度第1回 所沢市放課後児童対策協議会
開 催 日 時	令和元年7月25日(木) 午後1時30分から 午後4時30分まで
開 催 場 所	市庁舎 低層棟2階 203会議室
出席者の氏名	(会議録別表1)のとおり
欠席者の氏名	小川 遼
説明者の職・氏名	
議 題	(1) 諮問事項及び所沢市放課後こども健全育成基本方針について (2) 子ども・子育て支援事業計画について(量の見込みと確保の内容) (3) その他
会 議 資 料	(1) 所沢市放課後児童対策協議会 名簿 (2) 所沢市放課後児童対策協議会条例 (3) 所沢市放課後こども健全育成基本方針【改訂版】 (4) 諮問書(写) (5) 所沢市子ども・子育て会議委員の推薦について(依頼)(写) (6) 量の見込みと確保の内容の資料
担 当 部 課 名	こども未来部青少年課 こども未来部長 本田 静香 こども未来部次長 町田 真治 青少年課 課 長 森田 茂明 主 査 相笠 豊 主 査 田中 智子 主 任 猪合 拓馬 清水 美香 電話 04(2998)9103

(会議録別表1)

所沢市放課後児童対策協議会委員 名簿

	種別	名前	出欠席 状況	所属等
1	(1) 公募による市民	倉片 英治	出席	
2		中村 大介	出席	
3	(2) 関係団体の代表者	高田 美智子	出席	民生委員・児童委員連合会（吾妻地区 会長）
4		渡辺 昭子	出席	青少年育成所沢市民会議（青少年育成 推進員協議会会長）
5		小川 遼	欠席	P T A 連合会（中富小学校 P T A 会長）
6		松本 弘	出席	自立支援協議会（社会福祉法人藤の実 会）
7		金丸 慎一郎	出席	放課後児童健全育成事業者（株式会 社がくどう舎）
8		小沢 貞泰	出席	放課後こども教室実施校（北秋津小学 校ほうかごところとんぼキッズ）
9	(3) 知識経験を有する 者	笹井 宏益	出席	玉川大学学術院研究所教授
10	(4) 所沢市立小学校の 校長	横須賀 邦子	出席	所沢市立小中学校校長会（所沢市立北 小学校長）

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>1 開 会</p> <p>2 委嘱状交付 市長より、出席委員9名に委嘱状を交付した。</p> <p>3 市長あいさつ</p> <p>4 委員紹介 各委員が自己紹介を行い、その後、事務局職員が自己紹介を行った。</p> <p>5 正副会長選出 委員より次のとおり推薦があり、各委員から承認され、決定した。 会 長 笹井 宏益 委員 副会長 小沢 貞泰 委員</p> <p>6 諮問 諮問書「所沢市放課後子ども健全育成基本方針の推進について」を、市長から笹井会長へ渡した。</p> <p><input type="checkbox"/> 会議成立の報告 出席委員が、委員総数の過半数を超えていることを確認し、会議が成立したことを報告した。</p> <p><input type="checkbox"/> 会議の公開・非公開について 会議は原則公開とし、傍聴者数を先着10名に決定した。</p> <p><input type="checkbox"/> 会議録の作成について 要約筆記とし、発言した委員名は掲載しないことに決定した。 会議録は、会長が内容を確認したうえで確定し、公開とする。</p> <p><input type="checkbox"/> 傍聴者確認（0名）</p> <p><input type="checkbox"/> 会議資料の確認</p>

	<p>□「所沢市子ども・子育て会議委員の推薦」について 笹井会長から次のとおり推薦を行い、各委員から承認され、決定した。 所沢市子ども・子育て会議委員 小沢 貞泰 委員</p> <p>7 議事 (1) 諮問事項及び所沢市放課後こども健全育成基本方針について 諮問事項について、資料2・資料4に基づき、内容の説明をした。また、所沢市放課後こども健全育成基本方針について、資料3に基づき、概要の説明をした。</p> <p>基本方針の6つの重点事業について進捗管理を行い、事業が効果的に展開されるよう、提案を行う。また今年度は、基本方針の見直し審議と、議事2「子ども・子育て支援事業計画」の放課後児童健全育成事業部分の計画について審議を行う。</p> <p>議事(1)の内容については、何か質問等があるか。なければ議題(1)については以上とする。</p> <p>(2) 子ども・子育て支援事業計画について(量の見込みと確保の内容) 「子ども・子育て支援事業計画」における放課後児童健全育成事業の量の見込みと確保の内容について、資料6-1から6-11に基づき説明をした。また、放課後児童健全育成事業の量の見込みの算出方法について、新プランに基づく方法で算出し、実利用率を直近3年間の平均値とすることを事務局案とした上で、今協議会で検討する内容として、資料6-12に記載する4つの事項を提示した。</p> <p>議事(2)について、資料6-12に沿い、検討していきたい。検討内容1の算出方法について、質問、意見等はあるか。</p> <p>資料6-2について、①(1)の2号認定とは何か。 平成27年から子ども・子育て支援法が施行され、保育の必要性や年齢により区分分けがなされた。それにより、1から3号に分かれ、2号は3歳以上で保育を必要とする者、つまり保育園を利用する3歳以上の者をいう。</p> <p>では、資料6-3の「保育の必要性の低い者」とは。 短時間の就労で保育の必要性が低い者である。</p> <p>①「新プランに基づく量の見込み」と②「アンケート調査に基づく量の見込み」とでは、算出された数字が全く違うが、その理由は。 ①については、前年度の保育が必要な方の実績から算出したので、減少傾向にある児童数の変動を加味した上で、増加傾向にある保育ニーズも反</p>
事務局	
会長	
事務局	
会長	
委員	
事務局	
委員	
事務局	
委員	
事務局	

<p>会長</p>	<p>映している。②については、アンケート調査を基に、共働き世帯やひとり親家庭等の家庭類型割合から児童数を割り振り、それぞれの家庭類型ごとの放課後児童クラブの利用意向率を掛け合わせて算出している。人口推計による児童の減少傾向のみを変動要素としているため、量の見込みについては減少していくことになる。前回の当初計画は、アンケート調査に基づき算出していたので、児童数の減少に伴い、保育ニーズが減少する見込みだったが、実際には保育ニーズは増加しているため、実績値により中間見直しを行い、提案したものである。</p> <p>アンケート調査によるものだと、今後の様々な変動が反映されないが、新プランによる実績に基づけば、ある程度反映されるため、合理的ではないかということであるが、これについてどうか。</p>
<p>委員</p>	<p>児童数は減少傾向だが、児童クラブのニーズは増加傾向であり、この2つの要素をどう見ていくかが問われている。また、今後保育園等の保育料が無償化することで2号認定者数が変化すること等が予測され、それがどの様に児童クラブの量の見込みに影響するか分からない。そういったことから、実態に基づいた新プランによる算出の方が良いのではないかと。</p>
<p>会長 委員</p>	<p>他の委員についてはどうか。</p> <p>実績に基づいている方が良いので、①新プランに基づく算出方法が良い。</p>
<p>委員</p>	<p>①新プランに基づく方が良いと思うが、この量の見込みに対して、市は確保するよう対応していくということなのか。</p>
<p>事務局 委員 事務局</p>	<p>市の放課後児童健全育成事業として、量の確保は行っていく。</p> <p>確保の方策については、どこに示されているのか。</p> <p>資料3の基本方針P27の重点事業1 放課後児童健全育成事業の事業展開の方向性に記載してある。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>「ほうかごところ」もこの事業に含まれるのか。</p> <p>「ほうかごところ」については、違う事業である。「ほうかごところ」は、保護者が就労等をしているか否かに関わらず、全児童を対象として、放課後の居場所を提供する事業である。</p>
<p>委員</p>	<p>入学前から児童クラブに入れるか不安に思っている保護者は大勢いる。また、転居等で途中入所できない方もいる。「ほうかごところ」のみだと、より多くの時間に保育を必要とする様な保護者にとっては不十分であり、そういった意味でこの事業を市が推進していくことに重要性を感じる。</p> <p>資料6-3のd、eの数字を考えるにあたり、転入出等を考慮しなくて良いのか。また実利用率を算出するにあたり、夏休み等の長期休暇や習い事等の諸事情をどのように勘案していくかは、考えなくてはならない。</p>

事務局	<p>実利用率については、1年度の全クラブの利用率である。クラブによっては、実利用率が低いところや高いところがあるが、今回は全体の計画ということで、全クラブの利用率を出したものである。</p>
委員 会長	<p>現実的な結果が出る算出方法であると思う。</p> <p>検討内容1の算出方法については、「①新プランに基づく量の見込み」を採用するということがよろしいか。また、2算出内容についても、他に意見はあるか。</p>
委員	<p>なければ、検討内容3の実利用率について、事務局は「直近3年間の平均の実利用率」を提示しているが、委員より夏休み等の長期休暇の実情が反映されていない可能性があるとの指摘があった。実績に基づいて量の見込みを行うならば、実利用率がしっかりしている必要がある。</p>
会長	<p>量の見込みを行うにあたって、実利用率を掛け合わせる算出方法と登録人数を使う算出方法があると思うが、実利用率を選んだ理由は何か。</p>
委員	<p>登録していても来所しない児童がいることから、実態に即した実利用率を使用したと思われる。</p>
委員	<p>実利用率について、低学年の多いクラブはかなり高い数字になる。クラブの状況によって、数字が大きく異なることから、その点を十分に勘案していただきたい。</p>
委員	<p>実利用率について、来所した児童の内訳に関わらず、登録人数に対する来所人数で出しているのか。</p>
事務局	<p>その通りである。</p>
委員	<p>そうすると、100人の登録があるクラブについては、普段約70人が来所するので、残りの30人については登録枠がなくても良いということか。</p>
事務局	<p>国の放課後児童健全育成事業の基準によると、支援の単位は、1回で支援を提供できる規模であり、例えば実利用率が70%だとすると、約56人の登録があっても、毎日利用するのは約40人である。56人については、登録はできるが、毎日利用する人数を確保できるよう、実利用率を掛けて量を見込んでいる。</p>
委員	<p>では、実利用率を掛ける前の人数が、実際には登録されるということの良いか。</p>
事務局	<p>その通りである。</p>
委員	<p>実利用率が減っている理由は何か。</p>
事務局	<p>平成27年度より、放課後児童健全育成事業の対象が小学校3年生までから小学校6年生までに変わった。それにより、利用率の比較的低い高学年も利用できるようになり、全体の実利用率が下がったと思われる。</p>

委員	<p>以前は、クラブにより保育料が異なり、今よりも金額が高いところもあったため、経済的な面で高学年になるほど辞めていくケースが多かったが、平成27年度に保育料が統一され、高学年の登録が増えたことも要因の一つと考えられる。</p>
委員	<p>4年生くらいになると、児童クラブへ行く児童は少ない印象がある。</p>
委員	<p>最近では、低学年でも習い事のために児童クラブを休む児童が増えてきている印象がある。</p>
会長	<p>実利用率について、A案ではなく、B案「直近1年間の実利用率」を採用した方が良いという委員はいるか。利用率のばらつきが大きい場合には、B案を採用した方が良いが、その場合は何故直近1年間を採用したかの説明が必須となる。A案の直近3年間の平均実利用率の方が合理的であるように思われる。</p>
委員	<p>利用率というものは毎年変動するため、平均をとった方が合理的だと思われる。</p>
会長	<p>資料6-12、検討内容3の実利用率については、A「直近3年間の平均の実利用率」ということでよろしいか。異論がなければ、A案を採用ということで、決定する。</p>
事務局	<p>資料6-6について、最終的には供給過剰になるが、その点についてはどうか。</p> <p>現段階では、問題のない範囲であると考えており、計画期間中は資料のとおり行っていく予定だが、必要があれば中間見直しで検討していく。計画期間以降について、供給過剰になり過ぎた場合には、調整が必要になってくるかと思われる。</p>
会長	<p>既存建物の修繕等には、適宜対応していくのか。</p>
事務局	<p>建物の老朽化対策については、必要に応じて実施している。現時点では、供給量の確保が非常に重要であるが、将来的には建物の老朽化対策に併せて、供給量の調整も行っていく必要があると考えている。</p>
会長	<p>今回の議事について、他に意見がある委員はいるか。</p>
委員	<p>子ども達の毎日の生活に関わることなので、現場の実態状況に即して、この計画を進めていっていただきたい。</p>
会長	<p>他になければ、議事(2)については以上とし、「子ども子育て支援事業計画」における放課後児童健全育成事業の量の見込みと確保の内容については、事務局案で進めていただきたい。</p>
	<p>(3) その他</p> <p>①「子ども子育て会議」の報告</p>

事務局	<p>令和元年度第1回所沢市子ども・子育て会議が、5月28日（火）に開催された。主な議題は3点、「1. 各事業の進捗状況について」「2. 教育・保育施設等の利用定員等について」「3. 第2期所沢市子ども・子育て支援事業計画の全体構成・骨子（案）について」である。</p> <p>本協議会に係る放課後児童対策に関する主な内容としては、「1. 各事業の進捗状況」の中で、放課後児童健全育成事業の平成30年度の実績、取組について説明があった。</p> <p>まず、実績として、平成29年度に比べて平成30年度は放課後児童クラブの利用実績が154人、約7%増加したこと、また定員を確保するための取組として、ひばり児童館とさくら児童館を改修し、生活クラブの定員拡大を行ったこと、並木児童クラブの建替え工事を行ったこと、民設民営児童クラブを1クラブ新設したこと、について報告があった。</p> <p>また、「第2期所沢市子ども・子育て支援事業計画の全体構成・骨子（案）について」の中で、計画の全体構成（案）についての説明、子育て世代にアンケート調査を行ったこと、各事業における量の見込みと確保の内容の目標設定などについて、説明があった。</p> <p>① 今後のスケジュールについて 次回以降の会議開催予定等について、説明した。 第2回 令和元年10月上旬 第3回 令和2年 2月上旬</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
-----	--